

(5)2001年度中等教育研究協議会・公開授業 アンケートから得られたフィード・バック

◎取り上げた回答について

今回の研究協議会においても、公開授業の参観者にアンケートを回答してもらうことにした。アンケート用紙では、「ソーシャル・ライフ」、「選択プロジェクト」、「総合人間科」、「新教科群」、「全体会（基調講演）」そして「研究協議会全般」について、記述形式でコメントを求めた。そこで回収されたアンケート用紙の記述を整理し、フィード・バックが得られる内容のものを以下に取り上げておく。

なお、次の4点についてあらかじめ断っておきたい。

- ・ 重複している内容の回答や一言程度の短すぎる回答については割愛した。
- ・ コメントは、「公開授業」に対して述べられた感想と、その後に関われた分科会についての感想の二種類が混在している。
- ・ 総合人間科の公開授業・分科会については、回答する際に高1・高2の区別をしてもらうようにしていなかったため、コメント自体が高1の公開授業について語られているのか、高2の公開授業について語られているのか、あるいはその両方なのか不明確になったきらいがある。
- ・ アンケートの回収総数は89枚で、回収率としては2000年2月に開催した前回の研究協議会よりも高かった。

《ソーシャル・ライフ》

- ・ 時間にゆとりがあり、無理なく授業を進められていたと思います。副担が授業をし、担任がサブにまわるやり方も参考になりました。
- ・ 研究された内容でした。授業を進めながら何かドラマを見ているようで、ドキドキしながら感銘を受けました。地元に戻り、参考書を探し、自らの研鑽と校内の研修に役立てたいと思います。
- ・ 人間心理をさぐる授業はたいへん参考になりました。これからの生活の中で行ってみたいと思いました。
- ・ ソーシャル・ライフの授業にハマってしまいま

した。スキルアップの時間としてとらえた道徳と違う授業でした。

- ・ ソーシャル・ライフは、2つのクラスの進め方に教師の個性や力量が反映されており良かった。
- ・ 中1については大変参考になりました。早速授業等の中で取り組んでみたいと思います。
- ・ 帰属に関する授業はなかなかおもしろく、少し変えてやってみたいという気持ちが高まりました。
- ・ ソーシャルライフは私は「新しい道徳授業」と考えるとわかりやすい。新鮮で、子どもたちの社会性・道徳性を心の内面から育てることが読み物道徳からの脱皮には必要です。
- ・ ソーシャルスキルをいかに育むか、構成的G・Eをいかに授業にのせてくるかなどと、心の教育・社会性の教育に悩みつつある中で、今日は価値ある示唆を頂きました。
- ・ 互いに認め合い、学び合おうとする人間関係が基盤となって授業が展開されていると感じました。授業の中で子どもたちが生き生きと学び、高まる姿が見られました。ソーシャル・ライフの成果なのでしょう。
- ・ 単なる投げ込みではなく、カリキュラムに組み込まれた「心の教育」を初めて見ることができました。これからの実践が積み上がるのが楽しみです。
- ・ ソーシャルライフはとても面白かった。TTでやっていたが、もう少しTTが活用できていればと思う。生徒の気持ちの動きや成果をアンケートで取って欲しい。
- ・ よく準備、考えられた授業展開であった。しかし、総合的な学習が道徳の授業を減ずる結果となるのはどうかと思いました。学活という時間には多少関連がある場合もあるだろうが……。道徳や学活との関連を知りたかった。
- ・ なぜ本時のまとめとして4コママンガを描かせたのか、その意図はどこにあるのか教えてください。4コママンガをどのように描いたらいいのかわからない子どもが多く見られたということは、前半の授業がわからないのか、4コママンガの活動を描く必

要性を生徒が感じないのか、ステップが大きすぎて生徒がついてこれられないのか、どれかである。後半の13分、「自分自身のこと」「他人のことを見て」と板書した後で、授業者が「そういう経験はありますか」と発問したときに、白い髪飾りを付けた子がいかにも自分の経験をいいたそうであった。言わせた上で、グループ内で互いの失敗談を語り合わせ、その上で自分の気持ちを分て綴らせることでも十分ではないか。あまりにも研究者サイドの色合いが強すぎ、現場の技が反映されていない気がした。ちょっと残念。

- ・ 2クラスとも見せていただいたが、間延びした感じを受けた。2時間も必要だったのか？生徒同士の話し合いの場面がほしかった。
- ・ 授業準備（事前打ち合わせ）がきちんとされていることとともに、系統化されていてわかりやすかった。H.R.などで単発で取り上げることも可能だと思った。教師側の資質とスキル、研修等の充実の必要もありますが。
- ・ 面白かったです。が、質問にもありましたが、前に立って一斉にやる「教師」が抜け切れていない気がしました。Teacherではなくfacilitaterとしての教師像（確認はしているのですか？）をいかに確立するかが大切だと実感しました。社会心理学だけではなく、人間関係トレーニングの方も取り入れると指導者側の方も考えられるのではないのでしょうか。
- ・ 公開授業後の分科会での時間が短く、意見交換が十分にできなかった。
- ・ 心理学との結びつきが非常に新鮮で、体験を通じて生徒に気づかせるスタンスの手法はたいへん参考になる。実際、自分の授業の道德や学活の中で活かしていけそう。
- ・ 分科会での質疑応答の時間が短くなってしまい残念でした。現場の立場から見て、似たことはやっても、それを「心の教育」の観点で位置づけから授業展開まで心理学の成果を取り入れている点が素晴らしいと思う。
- ・ 研究成果をという質問をしてみたいと私も考えておりました。身につけさせたい・気づかせたいことが獲得されたかを質問紙が観察法が、それともSSTにあるような指定した場面でどんな行動をするのかビデオで試すなど、是非知りたいと思いました。
- ・ 学問的な裏付けのあるカリキュラム構成であるところは注目に値する。しかし、子どもたちは「頭ではわかる」から実際の生活の中で行動として全く違うことをすることに問題がある。そこをどのようにして行くべきなのかを考える必要がある。本校も同じような内容の学習を行っているが、そこが大きな

課題である。

- ・ 発表によって全体像がつかめたとし、それぞれが何を目的として考えられたのか分かった。また、来年度の計画も示されたので、本年度の分で不足していると思われた「他者の考え方を察する」ということも計画されているのがわかった。
- ・ 分科会でもっと研究協議の時間が欲しかった。「心の教育」が持つ問題点がいろいろと見えてきそうでしたのに。（私は生徒さんにたくさん挨拶をしてもらいました。）
- ・ ソーシャルライフは、認知的・行動的に考えさせる授業実践である。社会心理学の知見や理論を中学1・2年に取り組み実践している様子がうかがえた。やや「教える」意識が先行していたかなと思う。
- ・ 授業では応用できそうなものもあり、為になった。「挨拶をしなさい」「お年寄りを大切に」という授業をすることも必要ではないか。
- ・ 社会心理学のバックグラウンドとの関係がよくわかってよかったです。そのような人間関係トレーニングの手法は、実際にトレーニングとしてやる時には時間をすごくかけるものだと思います。NASA（6時間）。そのあたりの時間、そして、活動と同じぐらいふり返りにもかけるというところはどう消化してゆけばいいのか、私も悩んでいます。『NASA』は『Creative O.D.』のactivityの一つだと思うのですが、これはトレーニングに使う以外の使用は不可だったような記憶があります。著作権の関係は大丈夫なのでしょうか？このような手法は国際理解（異文化理解）や環境・人権・福祉などの基礎ともなる部分だと思います。そのあたりがうまくつながっていけばよいと思います。価値教育の視点でつながればよいと思います。
- ・ 他校の先生方からの厳しい指摘に貴校への期待度、関心度の高さをあらためて感じました。やはり、新指導要領の開始に伴い、全国的にその内容についての情報収集が活発化しているのが肌で感じられた一日でした。

《選択プロジェクト》

- ・ 生徒は伸び伸びと数学の問題に取り組んでいましたが、参観者にはどのような問題に取り組んでいるのか分かりませんでした。参観者にも問題を配付していただくとありがたかったです。
- ・ 生徒の自発的な活動と積極的な取り組みに感心しました。小さなグループでの活動においても、積極的に取り組み、互いに意見交換する様子に感心しました。興味を持っている生徒が選択しているのだろうと思った。（数検にチャレンジ）

- ・ 選択授業もゲスト・ティーチャーを招いて行われているので、見習いたいところだと思いました。
- ・ 裁判ウォッチングについては、選択授業の貴校の目標である「広く浅く」の理念がしっかり見えていたようである。しかし、2年生は裁判の学習をしておらず、3年生との学力差はいかなるものでしょう？
- ・ 大学院生の方とのTTはうらやましく思いました。最初に傍聴体験の発表をした女子が発表のポイントをカードに短い言葉でまとめたり、間を取って発表していることが印象的でした。ことわざはとてもおもしろく見させていただきました。
- ・ 生徒がいきいきとした表情で取り組んでいた。さめた顔をした生徒がいなかったのには驚いた。また、この日のためにいろいろと調べたりよく考えていたりしたなあ実感した。(裁判ウォッチング)
- ・ 選択プロジェクトの考え方についての交流があれば良かったと思います。
- ・ 技術を参観しましたが、どの子も意欲的に活動しており、各自の課題を意識している様子がありました。ただ、角のみ盤の扱い方やほぞの加工の仕方など、基礎として指導しておくべきことは確実に指導する必要があると思います。
- ・ 基本的なのみの使い方を指導していると思いますが、子どもたちはそれぞれのやり方で穴を開けている。普通の授業ではアドバイスしながら作業を続けていると思いますが、自分で考えさせるために控えているのかもしれませんが。
- ・ Show&Tellについて、友だち同士(5人)で行わせる方法が参考になりました。
- ・ 他の選択プロジェクトの授業も参観してみたかった。(理科とか)
- ・ 生徒がのびのびと活動しているのが印象的でした。自分の感じたことを素直に表現して、互いに考えを深め合うことが大切だと感じました。(国語)
- ・ スクリーンに映された内容が書き留められなかった。もう少し資料として頂きたかった。
- ・ 選択授業の在り方について考えました。発展の方に重きを置く方はよくわかりましたが、補充としての扱いについてもうかがいたかったです。
- ・ 中高一貫教育の目標に掲げられている個性の探求の方法として考えられた選択プロジェクトの様子がよくわかる分科会であった。これから中高一貫校の立ち上げを考えている本校にとって、非常に参考になりました。
- ・ 選択教科の在り方についてよくわかりました。来年度からの実施について、もう少し多くを知りたかったのですが、発言できませんでした。
- ・ 物理的に不可能かもしれませんが、すべての教科

の実践報告があればよかった。特に、私は理科だったので残念です。

- ・ 選択教科の幅の広さなど(長所・短所)をあらためて学習しました。より多くの協力を得て頑張られていますね。スクール・ボランティア、参考になりました。
- ・ 課題解決型の授業を通し、個の主体性の深化が図られたとのことでした。生徒もよく動いておりました。異学年合同ということで教え合いなどの成果もあったようですが、講座の開設数の関係が大きく、合同での教科としてのねらいが弱いようにも思えました。
- ・ 選択教科の進め方についてはある程度わかりました。必修教科との関わり、さらに総合的な学習との関わりについて、話を聞く時間があるとよかったと思いました。
- ・ 自分の学校と比べて足りないところがよく分かり、教育課程を創る上で非常に参考になった。
- ・ 選択プロジェクトにおける異年齢集団は、他の学校においてすでに実施もされている。しかし、中高一貫教育という立場に立ったなら中高における異年齢集団の取り組みを試みて欲しい。
- ・ 助言者の最後の言葉が残ります。それは総合学習で教師・生徒が学ぶこの姿勢が教科指導で活かされ、今までと同じ教科指導では生徒もついてこなくなるだろうと言った意味の言葉です。

《総合人間科(高校1・2年生)》

- ・ 高校生の総合的な学習の時間に興味を持った。他の授業でもそうだが、近くにいる大学教授や大学院生も授業に参加させるスタイルを取れる環境がうらやましい。
- ・ 高1・2どちらにも言えるが、2年前の発表でのディベート、パネルディスカッションの成果が感じられ、堂々と発表してよかった。
- ・ 生徒たちによる、生徒たちの生き方追求のための、生徒たちの“小国会”はとても印象深かった。異なる意見をもつ相手に耳を傾けることは、「生命と環境」を取り上げる前提であり、これが実現されつつあるところがうかがわれて嬉しかった。
- ・ 主にプレゼンテーションとディスカッションの方法について注目していました。研究の内容は良かったが、それをどう分かりやすく伝えるかについてはまだまだ改善の余地があったと思います。伝えたい点を強調したり、できるだけ分かりやすい例や言葉を用いるなどして「人に何かを伝える・説明する」スキルに関する教育も必要であることを実感しています。その中で、相手の方向をしっかりと見て、論点

を明確にして発言していた「医療最強党」の子と、みんなが論点が分からなくなっていたところに、的確に問題点を整理して発表していた議長さんはなかなかすごいと思いました。発言したくてもできない人も、賛成意見に拍手するなどして積極的に参加するとさらに良かったと思います。いかに議題についていけなくなった人を引っぱっていくかも、重要ではないかと思います。

- ・ 生徒たちの知識の深さ、意見発表の態度に感心した。一つのテーマに沿った継続性のある探求活動の成果が出ていたと思う。
- ・ 生徒のプレゼンテーションに高校生の可能性を見ることができました。頑張っていますね。
- ・ 生徒の調査—発表—討論が、生徒の学ぶ意欲を作り出していくのではないかと感じました。討論で指摘されたことを次の課題として何度も討論会の場を持つことが問題を深めることになると思いました。演出された授業のようにも感じ取れたが、まずそうしたシナリオを用意してやらせないで生徒は方法がわからず困惑するかもしれない。
- ・ 生徒が生き生きとパネルディスカッションをしており、プレゼンの力が着実についていると感じました。
- ・ 高校生にこれだけの発表力と自分たちで調べ研究していく力を付けさせられるのかと驚きと感動でした。
- ・ 発表者の能力に左右されることが多く、1年間を通しての生徒評価の難しさを感じた。
- ・ 生徒の表情が見られる会場設定を。(高1)
- ・ 特に高校生の討論では司会の進め方がとても上手で感心しました。
- ・ カリキュラムにとらわれず、ゆったりと時間をとって生徒一人一人が生き生き楽しんで授業を作っている姿に感動しました。この中で先生方はどれだけ何を一緒に学ばれたのかも知りたいです。
- ・ よくもそこまで政治的に微細な内容まで踏み込んだなあと思います。私たちのような田舎ですと、生徒を政治的な問題に関わらせるのはタブーというか、上の無言の圧力を感じます。高校生の感性を押しつけてしまうようでイヤなのですが、なかなか打破できない。総合の大きなネックになっています。
- ・ 発表資料の内容の充実度にかかなりの違いが見られた。発表の進め方に明確な起承転結があると更に良いと思う。
- ・ 「主体的に生きる」ことがこの総合学習につながるなら、本当に素晴らしいと思います。実施は大変だと思いますが、それだけの価値があると思います。
- ・ 時間が短すぎて、長年の研究の内容を知るには不

十分でした。インターネットでの情報を見ますのでよろしく。

- ・ 本校も総合教科を始めて10年あまりになります。問題点は類似しており情報交換しながらお互い高め合っていく必要を感じました。
- ・ 午前中の授業と関連がある分科会だったので、授業を見て聞きたかったことが直接聞けて納得できた。
- ・ 総合人間科の具体的内容が明確で大変良かった。勤務校での導入にあたり参考になった。
- ・ 焦点を絞った具体的な内容を期待していました。
- ・ レベルの高いディスカッションを見せていただきました。活発に自分の意見を出し合う生徒の姿に「生きる力」を見た思いがしました。
- ・ 総合人間科の概要やこの学習活動を通じて生き方や進路選択にどのように影響したのか生の声を聞くことができ、大変参考になりました。
- ・ 質疑応答の時間が少なく、十分な討議がなされなかったもので、説明等をより簡潔にされるとよいと思います。
- ・ 授業を実践する上での教師・生徒の負担増にもかかわらず、「本来の教育」に少しでも近づきなせる魅力のすごさを実感しました。
- ・ ちょっと時間不足です。こちらが「聞きたいところ」「裏話」をもっと聞いてみたかったです。
- ・ 基本理念の説明で用いられたスクリーン資料が手元にあるとよかった。また、実際に今まで運営されてきたなかで生じた具体的な失敗事例や要改善案を開示していただけると良かったと思う。

《新教科群》

- ・ 教科の枠を越えた非常に興味のある教科の授業でした。生徒が生き生きと発表・参加している姿が印象的でした。
- ・ 生徒が楽しそうに生き生きと発表し、そして発言しているのが印象的でした。私もこのように生徒が楽しめて学べる授業をしたいと思います。ややもすると文理にタイプ分けされる中で、両方の視点や考え方の必要性を生徒に示す上で有効な科目になりそうであるという印象を持った。

《全体会（基調講演）について》

- ・ 教育行政における教育改革の流れについてよくわかる講演であった。新しい社会に対応した多様な教育を担う我々について、これからも常に研究を進めていかなければいけないことを感じた。
- ・ 貴重なお話ありがとうございました。貴重ゆえにもう少し各論を語っていただけたらと感じました。

- ・ 新学習指導要領について、文部科学大臣の緊急の提言は危機感を持っていることの現れか。審議官の本音を聞きたかった。
- ・ 文部科学省の生の声が聞いて良かった。
- ・ 御手洗審議官の講演、勉強になりました。子どもの事を第一に考えます。40人の定数にはこだわっていませんが、現場は小規模・中規模・大規模に限らず、雑務や調査で忙しいのが現実余裕がないんですよ。
- ・ 中高一貫教育の大切さ、必要性を痛感しました。絶対評価に対する話を聞ければよかったと思います。
- ・ 文部省から文科省に移行する中で教育改革の流れを知ることができました。

《研究協議会全般について》

- ・ 総合学習がスムーズに行われており、研究の成果が現れていると思いました。
- ・ 人数の関係もあるのですが、インタラクティブな交流にならなかったことは、貴校にとっても参加者にとっても残念なことだったと思います。
- ・ 生徒たちがとても自己表現にたけ、生き生きと、そして熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。これは先生方の日頃の取り組みが充実していることを物語っていると思いました。
- ・ 生徒がいきいきと発表しているのを見て感動しました。生徒がみんな上品！茶髪もピアスの子もいたけど、ダラーツとした子がいない。
- ・ 高校生や卒業生の生の声が聞いて大変良かった。目的意識の大切さ、その目的意識をつけることの大切さを痛感した。
- ・ 在校生・卒業生の生の声があり、教員からの一方的な説明ではなくよかった。
- ・ 子どもたち（特に中学生）の表情の明るさ、豊かさが、貴校の研修の深さ、そして確かさを示すものだと思います。感動いたしました。
- ・ 総合学習の取り組みについての資料は非常にありがたかったです。
- ・ 街（都会）の生徒なのに、服装などさわやかなのに驚かされました。
- ・ 6カ年の中における様々な試みがよくわかった一日でした。本校も難しい現実問題を越えて、精進かつ一貫性のあるプログラムへの集大成に向け、頑張らなくてはとあらためて思いました。
- ・ 総合学習を実施するに当たって、教員自身のブラッシュ・アップを教員全体としてどのように取り組んでいるのかを教えて欲しい。

(文責：木下雅仁)